

天白区在住の鎌田則雄さんは、20代の頃に山へ入って以来、約30年もの歳月をかけて撮影を続ける山岳写真家。日本アルプスはもちろん、全国各地の美しい山の情景を収めた彼の写真には、人を感動させる確かな力があります。

### 大好きな登山への目覚め そして山岳写真家へ

「ある日、先輩に山へ行かないかと誘われて。これまでも、一緒に遠流釣りに行くことはあったけど、登山があんなに大変だとは思わなかったなあ」と、初めて登山道に足を踏

した登山道もない、いわゆる「ヤノ山」歩き専門の先輩に連れられ、ヒイヒイ言ひながらの初登山。し

し、10月下旬の山で得た感動は、鎌田さんの心に深く刻まれました。「サ

どんなトラブルに見舞われても対処できるように、登山技術を磨きたかった」と密にたくましく、こうして山へ通い詰め、鎌田さんの興味は高山植物や山岳文化、写真へと広がっていきました。山々も写真は、山仲間が撮影したものがかきつけで、「俺のほうが上手く撮れるの」と、

### 【面白特集】写真を通じて山の素晴らしさを伝え続ける

# 山岳写真家 鎌田則雄

み入れた27歳当時のことを、鎌田則雄さんはさも愉快そうに述懐します。

小児マヒで右足にハンディキャップがあった鎌田さんは、歩くことはできても走るのには難しい体でした。それでも、「社会人になってから海流も歩き、自然の中に行くたびにワクワクしていた」と話します。そして初めて登った川上岳。はじきりと

て見るそれが氷だとわからなく、きれいな白い花が咲いていると思っ

負けない鎌田さんに火をつけました。その後、独学で写真を学び、ときに駒ヶ根在住の山岳写真家・津野拓次さんに指導を仰ぎながら、重

下山するも、鎌田さんはすつかり登山のとりこになっていました。それから、毎週のように先輩にせがみ、山へ。岩へ。沢へ。あげくは凍りついた滝までも登るアイスクライミングまで、「足が不自由だから、

山岳写真家・鎌田則雄に、こうして誕生したので。

## いい山岳写真を撮るには4つの「気」が必要 元気、やる気、根気、そして天気さ！

### 基本に忠実に撮る山岳写真の名古屋から発信したい！

その後、鎌田さんはプロの山岳写真家による審査を経て、日本山岳写真協会東海支部に加盟。山がもつとも輝く瞬間を的確なタイミングで捉えた写真は、山岳出版社の「カレンダー」など多くの刊行物を飾りました。実力を認められた鎌田さんは同協会の東海支部長に就任します。しかし、山岳写真家として確固たる地位を手に入れても決して手抜きをしない、これが鎌田流です。「三脚は必需品。ファイナダーを固定して、写真の四隅をしっかりと確認することが大事なんだ。手持ちで撮ると、登山道の端や樹木など、見る人の視線が揺らぶる余計なものが写真に入ってしまう。手持ちで撮ったか、三脚を使ったか、写真を見ればすぐにわかるんだよ」写真は横図が命だと強調します。「どんな写真も基本の構図、つまりフレーミングが大事。絵画と同じで、

見る人の視線をぐっと引きつけるためには、絵としての安定感が絶対に必要だし、なにより良い写真を撮るためなら基本を外すべきじゃない」

このように写真への情熱を話してくれた鎌田さん。この情熱を長らく住んでいる名古屋へ還元し、地域の文化を潤したいといっています。「自然の素晴らしさや良い写真の撮り方などを広めるのが、山岳写真家のミッション。今年7月に「インクあいちで開催された『夏山フェスタ』で、コンパクトデジカメで撮る山岳写真講座を開催したときには、満員御礼で。それは力が入ったよ」と嬉しそうに笑いました。

山に行き過ぎてヒザが痛むと苦笑いしつつも、「来年で会社を定年になるから、人好きな中央アルプス・宝剣岳、八ヶ岳南側・赤岳に、行きたいときに行ける」と目を輝かせています。その渾身の力、これからも進化し続ける予定です。



1 やは紅葉はアルプスのものが雄略的。北アルプス・沢沢(からさか)のナナカマドは燃えるような赤色。2 北アルプスの一角、双六岳を彩るコバイケイソウの大群落、樽池自然園、山の夏の絶景を撮る。3 12月、氷点下となった二高地の田代池には積氷が下り、神秘的な光景に包まれた。4 冬の宝剣岳は、神々しく、沈黙し、雪をワッセルする体力と技術のある者だけがこの景色に出会える。5 伊吹山をピンクに染めるシデソウ。ソウの人形宮。8月上旬には多くの人でにぎわう。6 盛夏の中央アルプス・千畳敷カール。山麓のしろが原からコープウェイでアクセスでき、人ももぎい

### 藤田先生の

### 撮影アドバイス&名古屋から行く紅葉イチョシ山



デジタルカメラには、ファインダー内を縦横に三等分する構図付きのものが多くあります。これを活用して、右上の交点には主役を、左下には脇役を配置してみましょう。絵と似ての安定感が増し、撮影が楽しくなります！

### 鎌田さんオススメの山

- ▲藤原岳(遊覧車、1,144m)  
静か紅葉の森を、落ち葉を踏みしめつつハイキング
- ▲野谷荘司山(地蔵堂、1,797m)  
白川郷と紅葉が同時に見える
- ▲能登白山(柳井界、1,617m)  
峠から約1時間で、絶景と紅葉が堪能できる

※紅葉は10月上旬～中旬まで、日暮れが早いので、地図のほか、ライトや夜間照明は必須です。



**Profile**  
鎌田則雄 (かみたのりお)  
高尾山生まれ050歳。昔はIT企業に勤めながら、休日を利用して山へ足を運んでいた。日本山岳写真協会東海支部長。  
ホームページは <http://searchemata.web.fc2.com/>

**Information**  
写真展  
「山・我らをめぐる世界」  
日時：11月7日(木)～13日(水)  
9:00～18:00  
会場：セントフルキャブリー(名古屋市中区錦)  
TEL: 日本山岳写真協会東海支部  
Eメール: [chirunaka022@yakuu.or.jp](mailto:chirunaka022@yakuu.or.jp)  
<http://japantouki.web.fc2.com/>